

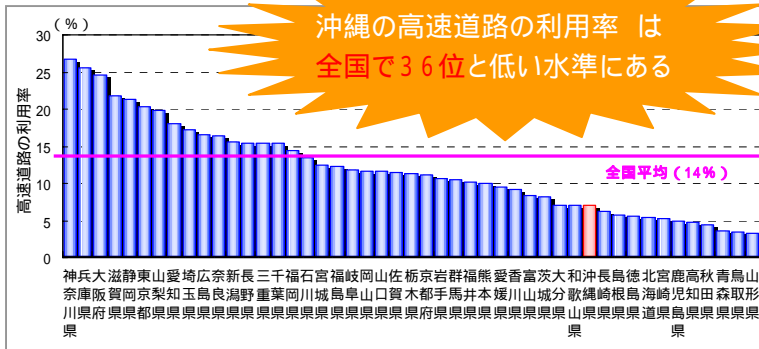
現状と課題

沖縄県における「高速道路の利用率」は、全国平均の約半分です。

道路（高速道路、幹線道路（国道・県道）、生活道路（街路・市町村道）の機能分担や高速道路の活用が十分に  
なされていない状況です。

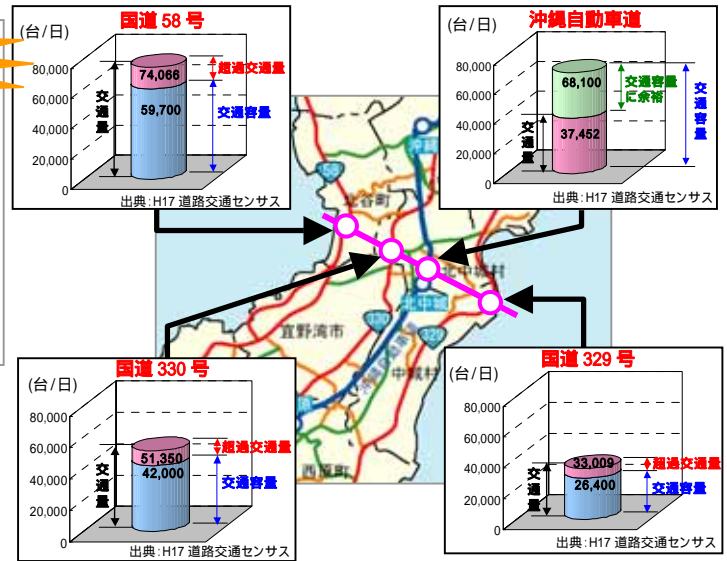
高速道路の交通容量に余裕があり、道路がアンバランスに使われています。

沖縄県を南北に縦貫する幹線道路において、国道58号、国道329号、国道330号は交通容量を超過しているのに対して、沖縄自動車道は交通容量に余裕があります。



【高速道路の利用率の全国比較(H17)】

自動車専用道路を利用する交通の割合を表す指標であり、具体的には、全道路の走行台キロに占める自動車専用道路の走行台キロの割合を表します。  
[沖縄自動車道（那覇IC～許田IC）、那覇空港自動車道（西原JCT～豊見城IC）]



沖縄本島は南北方向に広がる地域特性を持ち、南部地域に都市基盤や交通拠点（空港<sup>1</sup>・港湾<sup>2</sup>）が立地しています。

北部地域を中心に時間的ハンディキャップを抱えている状況であり、特に国頭地域は交通拠点まで30分以内で安全かつ快適<sup>3</sup>に移動できない状況です。

- 1：空港とは、那覇空港、宮古空港、石垣空港を指す。
- 2：港湾とは、那覇港、中城湾港、運天港、石垣港、平良港を指す。
- 3：車が無理なくすれ違えるような改良された道路を利用して空港・港湾まで行くことができること。

北部地域の時間的ハンディキャップ解消が課題



【空港・港湾からの所要時間(H17)】



# 課題への取り組み



拠点（中心都市・空港・港湾）までのアクセス性を向上させます



県土の骨格を担うハシゴ道路ネットワークの形成

国道58号、329号及びその間に位置する沖縄自動車道を柱としたハシゴ道路ネットワーク（沖縄西海岸道路の整備、東西道路の追加・強化及びスマートI.C（インターチェンジ）の導入）を形成します。

また、計画路線の選定や事業の実施にあたっては、効果の高い事業より優先的に実施していきます。



【ハシゴ道路構築イメージ】



【完成時のハシゴ道路ネットワーク】

- 南北を走る強固な『3本の柱』  
～国道58号(西海岸道路を含む)、329号、沖縄自動車道～
- 柱を支える『東西連結道路』  
～浦添西原線、県道24号線バイパスなど～
- 高速を使いやすくするICの増設  
～スマートICの整備～
- モノレールと高速バスの連携  
～シームレスな乗り換えを可能とする～

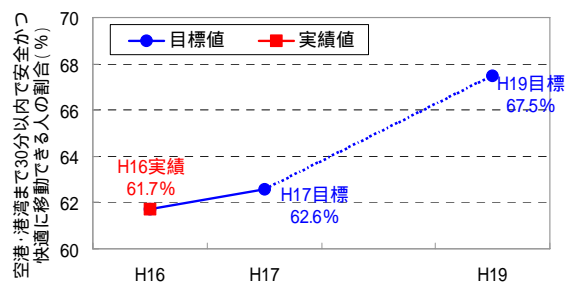
【ハシゴ道路の4つの要素】

## 平成17年度目標

### 目標

空港・港湾まで30分以内で安全かつ快適に移動できる人の割合を約1%向上

車が無理なくすれ違えるような改良された道路を利用して空港・港湾まで行くことが可能な人の割合のこと



取り組み



ハシゴ道路ネットワーク構築に向けた道路事業の実施

平成 17 年度に実施した主な事業・施策

事業・施策の名称	対策前	対策内容	完了年月	整備事例
国道 331 号 豊見城道路	現道で渋滞が発生しているため、那覇空港とのアクセスが悪い	バイパスの整備	H18年2月 部分暫定供用	A
沖縄環状線	未整備区間におけるボトルネックにより渋滞発生	比屋根1号・2号橋(橋面工)の整備	事業継続中	
沖縄嘉手納線	未整備区間におけるボトルネックにより渋滞発生	知花橋、道路改良(L=80m)の整備	事業継続中	

A 沖縄西海岸道路の一部である国道 331 号豊見城道路の開通

那覇空港とのアクセス性向上による地域産業、観光及び地域振興の支援を目的の一つとして整備  
平成 18 年 2 月 25 日(土)に、豊見城市瀬長～豊崎間(延長 2.3 km)を 2 車線道路として開通しました。



豊見城市



豊見城道路与根高架橋



アウトレットモール

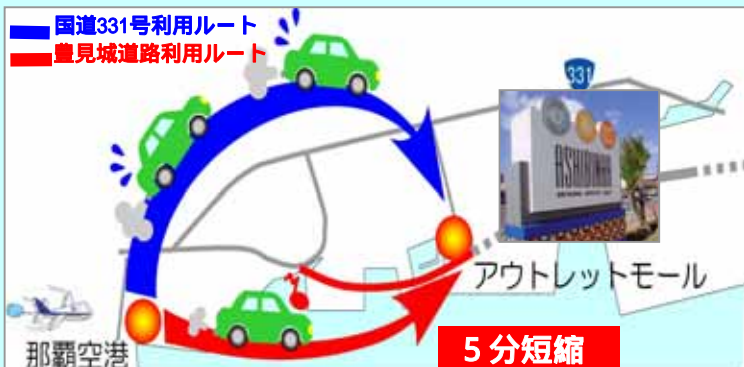


豊崎プロジェクト

沿線には、豊崎プロジェクト等の大型プロジェクトの計画もあり地域活性化を支援する道路として整備

那覇空港とアウトレットモールまでの所要時間短縮

空港や那覇・浦添市方面からアウトレットモール『あしびなー』へは、現道 331 号を利用するより豊見城道路を利用した方が、所要時間が 5 分短縮されます。



空港への所要時間短縮および見込み時間が正確に把握できるようになりました。



【利用者の声】





評価



～ 空港・港湾まで 30 分以内で安全かつ快適に移動できる人の割合 ～

目標  
約 1 % 向上



実績  
約 1 % 向上



空港・港湾まで 30 分以内で安全かつ快適に移動できる人の割合は、平成 16 年度に比べて約 1 % 向上し、目標を達成することができました。

また、ハシゴ道路ネットワークの形成率も 69 % から 70 % に向上しました。

空港・港湾まで 30 分以内で安全かつ快適に移動できる人の増加

豊見城道路等が開通したことにより、空港・港湾からの 30 分圏域が拡大し、空港・港湾まで 30 分以内で安全かつ快適に移動できる人が約 5,000 人増加しました。



## 平成18年度目標

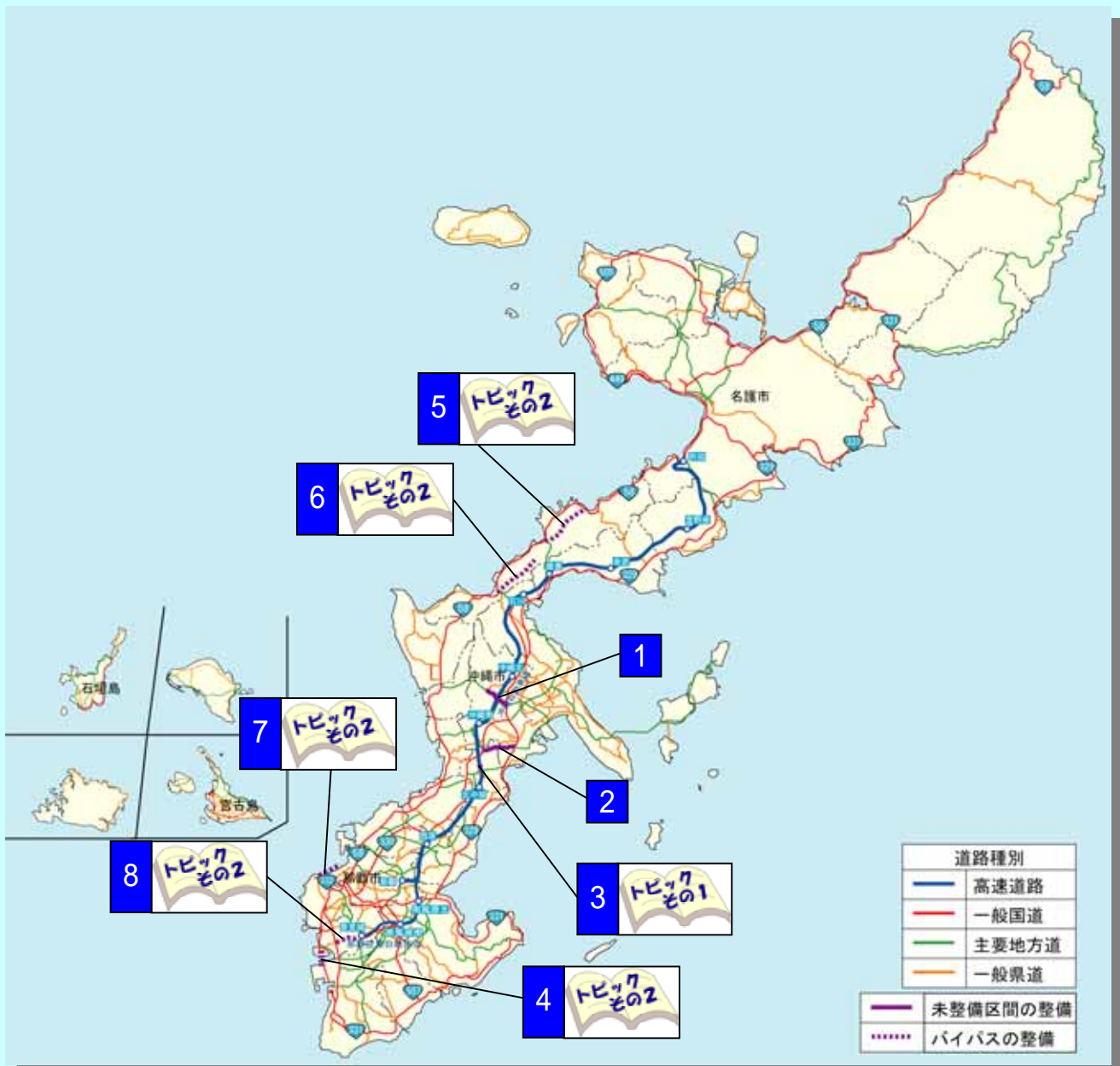
目標

ハシゴ道路ネットワークに関する事業（東西連結道路の強化）を進め、高速ICへのアクセス性を向上させ、既存道路の有効活用を進めることで、空港・港湾まで30分以内で安全かつ快適に移動できる人の割合を約1%向上

平成18年度もハシゴ道路ネットワークの早期形成を目指し、引き続き以下の取り組みを実施

### 【平成18年度に実施予定の主な事業・施策】

トピック	事業・施策の名称	完了予定年度	対策内容	期待される効果	トピック	事業・施策の名称	完了予定年度	対策内容	期待される効果
1	沖縄嘉手納線	H22供用予定 (道路改良(L=520m)の整備)	未整備区間の整備	生活中心都市(沖縄市)へのアクセス向上	5	お約束プロジェクトの公表 ～国道58号恩納バイパス～	H22年度全線暫定供用	バイパスの整備	生活中心都市(名護市)へのアクセス向上
2	沖縄環状線	H22供用予定 (トンネルL=259m、 道路改良(L=140m)の整備)	未整備区間の整備	生活中心都市(沖縄市)へのアクセス向上	6	お約束プロジェクトの公表 ～国道58号恩納南バイパス～	H21年度部分暫定供用	バイパスの整備	生活中心都市(名護市)へのアクセス向上
3	その1 沖縄自動車道での追加IC社会実験の実施	H18年度実施	沖縄自動車道喜舎場BS(バスストップ)にスマートICを整備	高速道路へのアクセス向上	7	お約束プロジェクトの公表 ～沖縄西海岸道路那覇西道路～	H22年度供用	バイパスの整備	那覇空港へのアクセス向上
4	その2 お約束プロジェクトの公表 ～国道331号豊見城道路～	H18年度全線暫定供用	バイパスの整備	那覇空港へのアクセス向上	8	お約束プロジェクトの公表 ～那覇空港自動車道(豊見城東道路)～	H22年度全線暫定供用	バイパスの整備	那覇空港へのアクセス向上







## 沖縄自動車道での追加 I C 社会実験の実施

沖縄自動車道の喜舎場 B S (バスストップ) にてスマート I C 社会実験を実施

国道 331 号や、北中城 I C 周辺などの渋滞緩和や、沖縄自動車道の利用促進、スマート I C 設置可能性等の検証に向け、沖縄自動車道北中城 I C ~ 沖縄南 I C 間に立地する喜舎場 B S (バスストップ) にて、スマート I C 社会実験を実施します。

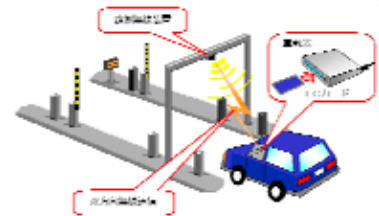
### 【スマート I C 社会実験の概要】

目的	スマート I C 運用の課題把握 北中城 I C 及び I C 周辺道路の渋滞緩和 沖縄自動車道の利用促進
運用方法	実験の期間 : 平成 18 年 11 月 ~ 平成 19 年 3 月 運用時間 : 6 時 ~ 20 時 対象車種 : 軽自動車および普通車 サービス形態 : 上り・那覇方面への入口のみの E T C 専用ゲートを設置



## スマート I C とは??

スマート I C とは、E T C 専用の簡易なインターチェンジのことで、一般の I C と比べて、建設・管理コストの削減が可能であり、既存の高速道路の有効活用や地域経済の活性化を推進するものです。



## お約束プロジェクトの公表

事業の早期供用に向けてお約束プロジェクトの公表による事業進捗管理・コスト管理の徹底  
平成 18 年度に国道 331 号豊見城道路の延伸を実施し、同路線の全線 2 車線整備を完成させます。



## お約束プロジェクトとは??

道路事業の透明性と信頼性をより向上させるため、事業中箇所のうち、整備効果が高く、事業実施環境が整っている箇所から **5 年以内に供用が確実な事業 (箇所)** を「お約束プロジェクト」事業に選定し、予算を集中投資するとともに、早期供用に向け、**事業進捗管理・コスト管理を徹底**していくプロジェクトのことで

< H P でも提供しています >  
(アドレス <http://www.road.dc.ogb.go.jp/ir/jigyuu/index.html>)

開通予定時期と効果の明示、  
毎年の目標と進捗状況を公表